

# 令和4年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		今年度の重点目標	1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校 4 働き方改革の推進
中長期目標	<p>1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊敬を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に開わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p>2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p>3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>			

評価項目	具体項目	年 度 当 初		最 終 評 価		
		現 状	具 体 目 標	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況 ・ 改 善 方 策	評 価
1 主体的な学びの推進	ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践するとともに、開講科目ごとのルーブリックを作成してパフォーマンス評価を実施している。	ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践するとともに、開講科目ごとのルーブリックを作成してパフォーマンス評価を実施している。	・教員の授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分に」として満足いくものだった」の問いに、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が実施し、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評価を確実に実行する。 ・Chromebookを活用した授業展開を工夫し、課題等の配信を行う。	・授業アンケートは、Chromebookを利用し全教科・科目で実施し、授業改善に生かした。 「この授業は自分に」として満足いくものだった」の問いの、肯定的な回答93.5%。 ・開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行い、調査や平常点なども考慮した総合的な学力評価を実施した。 ・Chromebookについて、教科の枠を超えた授業参観により、授業展開の工夫を行った。 ・課題・資料の配信、小テスト、授業内での活動のツールなど様々な形でChromebookを活用している。	A
	SSH事業に取り組むことで、科学的探究心・情報発信力、実践力を身につけ、よりよい社会の実現を目指すチャレンジャーを育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンペに積極的に打って出ている。 ・総参加者 98件・1130人 ・予選を通過して上位大会へ出場した者 21件・70人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数 ・総参加者 100件・1200人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場する者 20件・100人以上	・「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組みを継続する。 ・外部有識者による中間発表指導やフィールドワーク講習により、探究の質を向上させる。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究発展」において、主体的探究活動を推進する。	・各種科学コンテスト・土曜活用事業等実施事業など内外コンクールやコンペへの総参加者数は74件・946人であった。 その内、上位大会へ出場する者は11件・26人であった(12月末現在)。年度末までに多数の参加が見込まれる。 ・2年連続の「科学の甲子園」全国大会出場、SSH生徒研究発表会で初めてのポスター発表賞受賞、高校生バイオサミット優秀賞受賞、上智大学全国高校生英語弁論大会ジョン・ニッセル杯本選第3位など全国規模での生徒の活躍が見られた。 ・学校設定科目「課題探究基礎」では、ミニ探究における協力科目との連携を見直し、科目全体で生徒に身につかせたい能力を明確にした、系統的なカリキュラムを作成した。 ・学校設定科目「課題探究応用」では、Chromebookを活用した効果的な研究方法について試行錯誤しながら、各教科・科目での日常的な学習に基づいた基本的な技能を生かすことで、それぞれの探究活動を一層発展させている。今年度から中間発表で大学教員に専門的な見地からのアドバイスを受け、探究力が向上した。 ・学校設定科目「課題探究発展」では、初めてイノベーション発表会を実施し、47人の継続課題探究選択者が口頭発表を行った。 ・総合選抜型入試17名、学校推薦型選抜入試29名が出願した(昨年度：総合型25名、学校推薦型32名)。 ・11月ベネッセ総合学力テスト 1年次国数英総合全国平均点偏差値59.7(昨年度61.4) 2年次5教科総合全国平均点偏差値60.1(昨年度59.3) ・3年次ベネッセ・駿台11月共通テスト模試結果：5教科総合平均点偏差値54.9(昨年度56.0) ・3年次放課講習及び夏期講習：32講座開設し、延べ147名が受講した(昨年度：30講座、延べ1361名)。 ・夏期講習、冬期講習については、昨年度より人数が少なかったものの多くの生徒が積極的に受講し意欲的に学習した。 夏期講習(1年次 299名⇒229名 2年次 92名⇒79名) 冬期講習(1年次 164名⇒115名 2年次 114名⇒74名)(過年度比較) ・成績上位生徒の指導が課題である。 ・放課後、図書館、閲覧読書室等を利用して勉強する生徒が増えた。	A
	目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導の充実	国公立大学合格者237名(うち、現役合格者198名)、難関大学合格者54名となった。	・国公立大学合格者200名以上(現役合格者170名以上) ・難関大学合格者70名以上	・総合選抜型入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・個別学力試験対策の強化(授業・講習)	・総合選抜型入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・個別学力試験対策の強化(授業・講習)	B
2 豊かな人間性の育成	主体的・自律的態様の育成	・環境整備委員会を中心に、掃除の徹底を行っている。 ・総運動者数は延べ270人で対前年度比9%減であった。 ・問題行動件数は0件であった。	・規範意識の高揚 ・主権者意識の高揚 ・TEASの推進 ・生徒会活動の推進 ・SDGsの推進 ・運動者数対前年比20%減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・主権者教育や環境教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底 ・自転車用ヘルメットの着用を推進する。	・教員の指示がなくても自主的に掃除をする生徒が多い。生徒が自ら進んで挨拶する雰囲気がある。 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の問いに、95.2%の生徒が肯定的な回答をした。 ・生徒会を中心に校則の見直しやSDGsワークショップを行い、生徒が主体的に活動した。 ・学校祭を3年ぶりに敷地内で実施し、活動に制限がある中、生徒が主体的に取り組んだ。 ・12月末までの総遅刻者数は、前年度比10%増(R3:179人⇒R4:197人)であった。遅刻確認票などによる遅刻指導を徹底する。 (1年次生:48人⇒58人、2年次生:80人⇒59人、3年次生51人⇒80人) ・自転車用ヘルメットは1・2年次生は着用しているが、3年次生の着用率は1割程度と低い。 ・マナーアップさわやか運動や生徒会の取組などで安全意識向上を図る。 ・問題行動件数1件(12月末現在)。今後も普段の生徒指導を徹底し、未然防止にむけ迅速、適切に対応する。	B
	部活動の推進	新型コロナウイルス感染症による活動の制限が続いたが、運動部・文化部ともに活躍し、生徒相互の良い刺激となっている。	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 ・「部活日報」を行うことによって、賞賛する機会を設ける。	・全国高校総体で女子高飛込・3m飛板飛込・飛込競技総合で優勝、国民体育大会で女子高飛込で優勝・3m飛板飛込で準優勝した。 ・全国高校囲碁選手権大会で男子団体が5位に入賞した。 ・中国大会出場部活動・個人は54から50へ、全国大会出場部活動・個人は33から24と減少した(前年比、12月末現在)。 ・「部活日報」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、賞賛する機会を設けるとともに、HPに掲載した。 また、始業式・終業式において部活動等で活躍した生徒の報告会を実施し、オンライン配信で全校に紹介した。 ・台湾桃園市立陽明高級中学への訪問や受入れを中止したが、21名がオンラインによる交流を行った。 ・グローバルリーダーズキャンパスは13名が受講中(内、3名は聴講生)。 ・小川・早原奨学基金による海外研修に各5名が参加予定。 ・令和4年度米子東高等学校オーストラリア研修に16名が参加予定。 ・人権教育LHRは、1年次生は、生徒それぞれが関心を持つ人権課題について体験型ワールドカフェ方式で行い、2年次生は、部落差別の現状から忌避意識に基づく加差別の問題について考察し、人権意識の深化を図った。3年次生は、鳥取県人権施策基本方針とSDGsに挙げられている人権課題についてグループで考察を深め、差別解消の担い手としての自覚を深めた。	B
	体験的な学びの推進	国際交流・人権教育などを通して多面的な教育を展開しているが、追求する姿勢が足りず、妥協している生徒も多い。	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・海外研究機関とのオンライン交流 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開LHRの実施	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・海外研究機関とのオンライン交流 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開LHRの実施	A
3 生徒・保護者・地域に信頼される学校	P.T.A活動の充実	P.T.Aの各委員会(総務、人権教育推進、生徒育成、進路)が役員主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化によるP.T.A活動の更なる活性化	P.T.Aのニーズに対応した事業内容の見直しを進める。	・7月には、ジェンダー格差をテーマにP.T.A人権教育推進委員会研修会を、12月には、トランスジェンダーの人権課題をテーマにP.T.A人権教育研修会を行い、人権教育の推進に努めた。また、機関紙「ロゴスのこころ」を発行した。 ・各委員会は委員長が主体となり、学校の担当者や連携しながら積極的に活動している。 ・米東だより(107号・108号)や号外の人権教育紹介号を予定通り発行した。 ・岡山大学訪問を12月に実施し、保護者31名が参加した。	A
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 ・学校運営協議会を開催し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を行っている。	・積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 ・地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域と学校運営を行う。	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、熟議をして地域等との連携を深めたことを行う。	・学校行事の際は積極的に取材に赴き、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数は93回(12月末現在)であった。 ・部活動の様子など生徒の活動の様子を写真やコメント付きでホームページ上で発信した。 ・マチコミメールで臨時休業や新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起などをこまめに保護者に配信した。 ・学校運営協議会を、6月と2月に実施し、地域と連携した学校運営に努めた。	A
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は令和3年度は12.0時間/月であった。	「県立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」に定める上限時間を遵守する。	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、個々の業務の効率化を進める。	・業務支援員と連携し、積極的に依頼することで時間外業務を削減した。 ・採点ソフト百問繰返しを有効に活用した。 ・時間外業務時間の多い教職員に声掛けを行い、業務の効率化を図るよう促した。	B
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時間を削減する。	会議の回数削減等による業務の効率化を進める。	・11月をノー会議月間とした。 ・定例会議を削減し、朝礼後の打合せ等コミュニケーションをとることで業務の効率化を図った。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要